

司書 1 年生でも、私にできることを

田中喜美江先生のお話「学校図書館から支援する授業（学び）、情報リテラシー」を聴いて

山辺中学校図書館司書 樋口恵理子

田中先生のお話を聴いて印象に残っている言葉から、この1年の自分の仕事を振り返り、考えたことやこれからやりたいことをお伝えします。

- ・「学校に関係あることで図書館に関係ないことはない」
- ・「求められていることに応えるのはもちろん、図書館を整え、発信していくことも大切」

図書館だより（※）は本校で司書から生徒に直接伝える唯一の媒体なので、積極的に使っていくと考え、月に1～2部発行しています。図書館だよりの内容に合わせて、入り口の机の展示を変えています。季節や行事、時勢についての特集だけでなく、本そのものを知ってもらう特集もしました。また、理科の先生と相談しながら教科書に載っている本を中心に4類の本をまとめて入荷したことで、「理科は苦手だけどこういうのは面白い」と言って借りる子も出てきました。紹介した本については添付資料をご参照ください。

保護者の方も読んでくださるらしく、生徒が「お母さんに借りてきてって言われた」と本を借りに来ることも何度かありました。中学生は親子間のコミュニケーションが難しいお年頃だと思いますが、こうやって関わりの一助にもなるといいと思いました。

※Vol.9 と Vol.12 を本文の後に掲載

- ・「図書館ならではの伝え方」

司書というものは蔵書の管理が主な仕事だと思っていましたが、この1年でもっと大切なことがあると感じました。生徒の居場所づくりです。「図書館はあなたの砦です。いつでもいらっしゃい」とガイダンスや第一回の図書館だよりで伝えておいたからか、様々な悩みを抱えた生徒が気持ち打ち明けに来てくれました。保健室に行くほど具合が悪いわけではないけれど、心がもやもやするのでみんなのところには行きたくない、というような子が多いように感じます。

私はカウンセリングのプロではないので的確なアドバイスはできませんが、紙に生徒と話したことをメモして、「聞き」に徹します。一緒に紙を見ながら話すと、自分の気持ちが文字で可視化できるので落ち着くようです。その後で、「あなたの気持ちに合うのはこの本かもね」とさらっと本をおすすめしています。これをこっそり「本の処方箋」と個人的によんでいるのですが、今後はもっとその人に合った選書ができるようになりたいと考えています。そのためには自分で多くの本を読みこんだり、本に関する情報を収集したり、司書として経験を積むことが必要だと考えています。

理科の本当の面白さを知っているか？

今回、理科の谷岡先生とも相談して理科関係の本を新規(大量)入荷しました。教科書で紹介されている本もあります。理科の授業でもサイエンスに触れることができますが、それは世界のほんの一部です。この世にはもっと、わかっていることやまだわからなくて研究中のことがたくさんあります。本から理科の世界を広げてみませんか？



雷鳥社辞典シリーズ『草の辞典』森乃おと

手のひらサイズでこぢんまりとかわいい辞典シリーズ。草の他に、空、花、石、菜、星、色、紋があり、それぞれをその道のプロが担当。きれいな写真やイラストに興味をそそられます。本当に美しい装丁(本の表紙や構成)で、調べるためにはもちろん、読んで目が喜ぶ辞典です。

『まるで魔法のような本当の話』TERUKO

ガラスのように透き通る花、いちごミルク色の湖、不老不死を手に入れたクラゲ…。どれもファンタジーに出てきそうですが、全てこの地球上に存在するのです。そんな「魔法みたいだけど、現実にある」お話を、物語屋がお姫様に毎晩語って聞かせる、ストーリー仕立ての図鑑です。



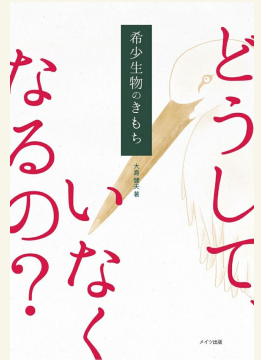
『世界の研究者が調べたすごすぎる実験の図鑑』カンゼン

「空に向けて撃った弾丸が当たったらどうなるか?」「女子高生が真冬に生足でも平気なのはなぜ?」「睡眠学習法は本当に効果がある?」といった、なんで調べた?と言いたくなるような実験の数々。知的好奇心たっぷりすごい。明日誰かに話したくなる実験譚です。



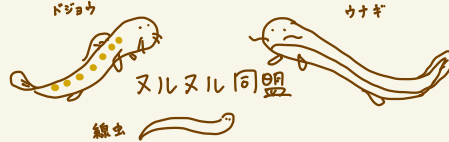
『世界で一番美しい化学反応図鑑』セオドア・グレイ

一瞬で消えてしまう、または肉眼で見るのが難しい化学反応。その一つひとつを鮮やかな写真でじっくりと眺めることができます。図鑑を開くと濃厚なインクの匂いがするくらい、印刷に凝った綺麗なページばかり。身近な現象と交えた説明から入り、専門的な解説もするする読めます。



『希少生物のきもち』大島健夫

環境省が出しているレッドリスト。そこには絶滅の危機にある生き物たちが載っています。この本では、そんな希少生物が、希少生物同士で対談をします。ニホンウナギにドジョウは「やあ、ヌルヌルしてる？最近どう？減ってる？」などと質問しています。絶滅危惧種たちの声に耳を傾けてみましょう。



『くだらないものがわたしたちを救ってくれる』キム・ジュン

世間ではくだらないもの扱いの「線虫」を研究する著者。研究者の恵まれない労働環境にあえぎながらも「今日も推し(線虫)が尊い」と日々奮闘。自分が好きなものに打ち込む楽しさを教えてくれる、研究者の本音お仕事小説です。いざ、顕微鏡の中の小さな宇宙へ。みんなで生物オタクになろう。



ヒグチのつぶやき

すてきな総合発表会でしたね。ステージ、体育祭、展示装飾、全てから皆さんの熱が伝わってきました。また9月はみなさんの教室にて、書写の授業でお会いすることができました。図書館とは違う表情が見られたり、一生懸命に書に打ち込む姿が見られたり。久しぶりに授業を持って緊張しましたが、温かく迎え入れてくださって嬉しかったです。また書き初めの時期にお会いしましょう。それまでは図書館で新着本と一緒に待っています！



▲授業前に練習。墨の香りの図書館になりました。